



理学博士の多くは、先ず「ポストク」という任期付きの研究者として、大学や研究所で研究を進めます。

ポストクは、様々な場所で研究力を磨き、研究者として羽ばたくための重要なキャリアです。

今では、多くの研究者が、大学や研究所のパーマネント職につく前に、1つかいくつかの**ポストク**を経験しています。一方で、任期があり、**ポストク**後の就職がどうやって決まるのかわかりにくいことを、不安に思う学生も多いようです。

東京大学大学院
理学系研究科

キャリアシンポジウム

ポストクというキャリア

昨年のキャリアシンポジウムでは、理学の学位をとったのち、大学や研究所、企業などで活躍している先輩たちのお話をうかがいました。

今回のキャリアシンポジウムでは、ポストクを経て大学や民間に就職した方々のお話をうかがい、

ポストクについての皆さんの質問に答えます。

理学系研究科は、熱意ある若手の博士進学とキャリア選択を応援します。

2010年2月23日(火) 17時～ 小柴ホール

- 福田 裕穂 副研究科長 挨拶 ■ 茅根 創 教務委員長：理学系研究科学位取得者の就職状況
- パネルディスカッション 「ポストクというキャリア」 司会：横山 広美（科学コミュニケーション論）

パネラー



麻生 洋一
(物理学専攻 助教)



高屋 智久
(スペクトル化学センター 助教)



角川 洋子
(附属植物園 助教)



波利井 佐紀
(地球惑星科学専攻 特任助教
4月から琉球大学 准教授)



越後 智雄
(財団法人地域地盤環境研究所 研究員)